

「笑顔の輪プロジェクト」

東北被災地ボランティアバスツアー報告

実施日程 2012年6月22日（金）～25日（月）

場 所 宮城県石巻市 牡鹿半島沖 狐崎浜と小淵浜

参加者 福井県民27名 石川県民2名 合計29名

今回のボランティア活動は、宮城県の牡鹿半島にある狐崎浜周辺（ノブ浜）の瓦礫を人海戦術&カヌーを活用した瓦礫撤去活動を行いました。小淵浜での草刈りの美化作業も実施。

メインの作業は、狐崎浜（ノブ浜）での瓦礫の撤去でした。23日と24日は、この瓦礫撤去をメインに私たちのチーム29名と全国から集まったボランティア総勢80名で活動を行い二日間でかなりの量の瓦礫の撤去を行い綺麗な浜を取り戻すことができました。（写真参照）

この浜は、崖の下にあり、車が入れないことと、人手が足りないことで手つかずの状態でした。現地で活動する財団法人 OPEN JAPAN からの要請もあり実施に至りました。

参加頂いた10代から70代まで男女が、自分のできる力の中で精一杯お力をかしてくれたことに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

初日は、天気は良かったのですが、風が強くカヌーを出すことができませんでした。そこで、道なき崖に足場を作り軽量のゴミをバケツリレーの要領で運びました。なんと言っても多かったのが発泡スチロールでした。発泡スチロールを細かくして大きなビニールや袋に入れるところから開始。何百袋にもなり気の遠くなる量でしたが、そのゴミを数百メートル離れた崖上の道路まで80名のバケツリレーにて上げることができました。プラスチック系のゴミと漁具を漁船にて運搬も行いました。

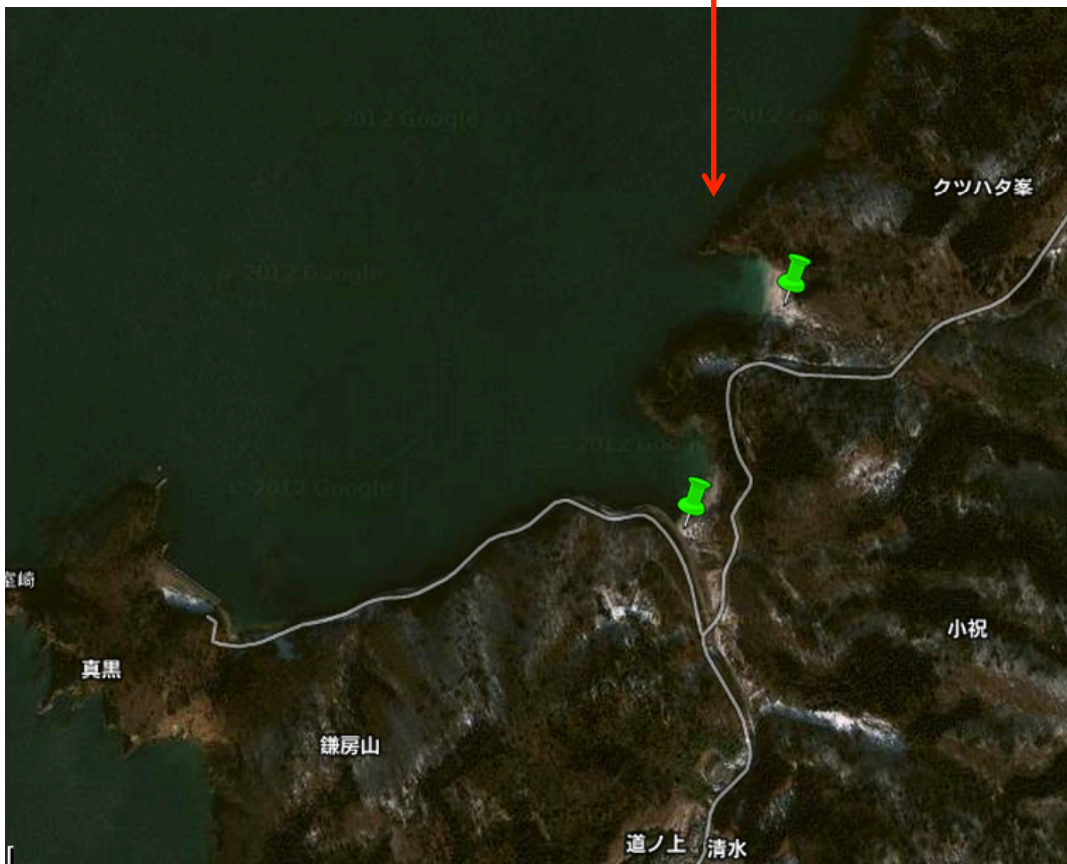


左写真（狐崎浜）の奥の山向こうが右写真（ノブ浜）の瓦礫撤去を行うノブ浜になる。

右写真のノブ浜に行くためには、船で渡るか急な崖を降りる必要がある。



下の写真の下ピンが狐崎浜、少し上の浜がノブ浜になります。



海は地震、津波など無かったかのような美しさでしたが・・・



浜はこの様に瓦礫の山でした。終わりの見えない闘いのスタート！



重機を入れることができないので人海戦術でひとつひとつ手作業でした。



軽い発泡スチロールは、手渡しリレーにて崖上の道路まで運搬しました。

どれだけの数をリレーしたのかも分からない量でした。



中継地点までためてここから急な登り↓



瓦礫の分類だけでも大変な作業でした。



2日間で終わるか・・・疲労感漂う1日でしたが、夜は、小湊浜で
自炊し、現地の方と交流した食事でした。

本当だと夏は活気づく民宿（小湊浜のあたご荘）も震災2年目でもこの状態
民宿の裏は、今も手つかずの瓦礫の山・・・



綺麗な夕日の手前は瓦礫の山



疲れた体でしたが、参加したボランティア仲間達と食事を通じた交流、
現地の方との交流で笑顔が戻った瞬間でした。



作業するだけでは、ボランティアは続かない！楽しく笑顔で活動することで被災地も喜ぶのです。

よく働き！よく食べ！よく笑い！よく休む！これが大切です。



2日目の朝は、風もおさまり気持ちのいいスタートとなりました。



2日目は6名が、小湊浜に残り、この地区の草刈りや食事の準備に当たってもらいました。他23名のメンバーは昨日と同じく狐崎浜（ノブ浜）の作業に従事いただきました。この日は、風がなかったことでカヌーを出すことができ、浜から浜への運搬が可能となりました。木や鉄くずなど崖を上げることは無理があるが、カヌーや漁船を使うことで重機を入れられる浜への輸送が容易となります。カヌーも複数台を連結することでかなりの量の瓦礫を運搬できるのです。詳細は、写真にてご確認下さい。



カヌーに瓦礫を積み込む参加者達



最後は瓦礫を乗せたカヌーで移動



左下↓ 撤去前 ビフォー

右下↓ 瓦礫撤去後 アフター



この二日間で、これだけの瓦礫を撤去しました。写真だけでは伝えきれないですが、人海戦術、ひとり一人の力は非力でも、想いを同じくコツコツと取り組むことでやり遂げられることを参加者が一番得たものではないでしょうか。

最終日は、泊まらせて頂いたあたご荘の清掃とグラジオラスを庭に植える作業をおこないました。



生協職員が中心に、福井県民からご支援頂いたグラジオラスを植えました。



「来たときよりも美しく」を合い言葉に、心を込めてお掃除





最後は、石ころにアートを施し、想いを残してきました。



今年中にこのあたご荘も改築が予定されています。次回訪れるときは、綺麗に生まれ変わっているかもしれません。民宿として再会される日を願うばかりです。

あたご荘を後にし、石巻市内の津波被害地区をしさつして福井に向けて帰路につきました。

私たちが、できることは小さなことですが、継続してこの様な活動が継続し、東北の震災が忘れられ、風化していくことを防ぎたいと思っています。今後とも皆様方のご支援をいただけますようお願い申し上げます。

災害支援チーム 未来ビレッジ JAPAN

ふくい未来ビレッジ・ネットワーク

<http://fmvn.org/>